



RI 会長テーマ

2016~2017 年度
大船渡西ロータリークラブ会報

七福人

会 長 藤原 太伸
副会長 前野 良夫
幹 事 浜田 浩誠



会長指針

チーム大船渡西で

ロータリーを楽しもう

．．． 例 会 記 録 ．．．

2月第3週例会 2017年 3月 9日 (木)

ソング : 我等の生業 ボックス : 36,000円 (報告者 千田喜一郎会員)
本日出席率 : 59.32% 前回修正後76.27% (メキップ 4名) (報告者 新沼 敏宏会員)

★ 会長の時間 藤原太伸会長



時のたつのも早いもので明後日には、また東日本大震災が発生した、3月11日が来ようとしています。そして東日本大震災から6年が過ぎようとしています。大船渡の町にも現在商店街が建設中で5月の連休頃にはオープンを迎える予定です。以前の活気あふれる街に少しでも、戻ればと思います。

今日は、それに伴いお話しさせていただきます。

「備えあれば憂いなし」という言葉があります。

ここ最近地震がまた多くなっているようで、地震や洪水などの自然災害が全国どこにでも発生する状況になってきて、防災に対する関心がより、全国的に高まってきているように思います。皆さんも、万が一のために水や食料を備蓄したり、防災グッズを買い求めたりしておられる方も多いと思います。そういうモノも準備することも大事ですが、私はいざというときの行動の為に、防災マップを活用することが大切だと感じています。

市役所などから家庭に配布される防災マップを、目にされたことがあると思います。それを見れば、地震や津波警報・洪水が起こった時にどこにどういう危険があるか分かります。また、避難所や防災施設もいろいろ区分して詳細に書かれています。

家庭ではもちろんのことですが、職場や通勤の行き帰りなど、どこにいても災害にあう可能性があります。いざというときに落ち着いて行動するには、きちんと知識を持っていることが重要です。

ハザードマップは、都道府県、区市町村などいろいろな単位で発行されていて、自治体のホームページなどで簡単に見ることができます。住んでいる地域だけではなく、帰宅ルートに当たる地域も、確認して頭に覚えておいた方がよいと思います。

生活もビジネスも安全があってこそ成り立っています。ただ警報や指示を待つのではなく、「つなみてんでんこ」という言葉がありますが、自分自身で状況を的確に判断して、最善の行動をしたいものです。

いざという時のためにもハザードマップを再認識し、自分や周囲の安全を守りたいものだと思います。と言う事で、再認識のためにも大船渡市津波ハザードマップ(盛・大船渡版)を持ってきました。自宅及び会社にて掲示して頂き、家族・社員の方々の災害に対する意識の高揚、そしていざという時の避難場所・避難経路を再認識して頂ければさいわいです。 以上

◆◆◆ 幹事報告 ◆◆◆

- 1 大船渡東高校より 卒業式臨席への礼状が届いています。
- 2 大船渡市より 第6回未来創造ホーラムの案内が届いています。
日時 3月12日(日) 午前10時～正午 場所 シーパル大船渡
出席希望者は10日迄に連絡下さい
- 3 難民を助ける会より AAR ニュース3月号とアフガン帰還民緊急支援への協力依頼が届いています。

◆◆◆ 委員会報告 ◆◆◆

★ 木下彰則環境保全小委員長

先週は寒い中での清掃ご苦労様でした。市民から金の鳴る時間がずれているとの申し出があり浜田幹事と共に調整しました。

淡路大震災の支援のお礼として名古屋の防水協会より申し出があり、桜の植樹を行います。

日時 3月25日(土) 10時～ 場所 赤崎町石橋前農協支所付近三角地公園 参加をお願いします。

★ 齊藤俊明会員

時間を頂戴しお話をさせていただきます。

市の人口は震災前約41,000人 震災後約37,000人このままだと40年後には18,000人まで減少すると懸念されており。これを憂慮した市より結婚応援大使に任命されました。独身者の多い事業所等に登録をお願いしております。男女の出会いを進めたいと思いますのでご協力お願い致します。

◆◆◆ 本日のプログラム ◆◆◆

フリーアワー : 会員卓話

★今野義也会員



1974年(昭和49年生まれ)会員の菅野嘉洋さんとは、学校は違いますが同級生ということになります。著名人であれば、プロ野球元読売巨人軍の松井秀喜選手の世代であります。

生まれは大船渡市大船渡町の丸森になります。すぐお隣が末崎町になるところなので、よく勘違いされたりもいたしますが、大船渡町の最南端ということになります。大船渡小学校、大船渡中学校、大船渡高校と地元の学校で過ごし卒業しております。

小・中・高と約9年間、野球をやっておりました。私達世代はちょうど大船渡高校が春のセンバツ甲子園ベスト8の時にテレビにかじりついて、それに憧れをもって野球を始めた世代でもあり、当時は気仙全体的に野球が非常に盛んな時代でもありましたので、野球人口も多く非常に一生懸命野球に費やした学生時代でありました。

ちなみに、高校野球部時代に当時の監督であられる佐藤隆栄さんに『お前はヒゲを生やせ』と命じられて以来、ずっと無精髭ですごしてきております。(当時はどのチームにも相手チームにプレッシャーをかける強面役が存在したためと思われる)

そんな地元生活を過ごし、仙台で一年浪人した後、東京の大学に進学いたしました。大学4年間の後さらに4年ほど東京で過ごした後、大船渡に戻り、実家の家業で現在の会社でもありますマルヤス家具製作所ので以降現在まで役15年ほど仕事に従事しております。

現在の会社は、父親が始めた家業であり、最初はマルヤス木工所としてスタートし、木工技術職人でありました先代・父と母の個人家族経営でございました。

ちなみにマルヤス家具という同名の店舗が末崎町にございますが、ここは私の父の兄である今野安男の店舗でございまして、元々はこの方が技術職人で、父が弟子として木工技術を学んだということになります。そういった関連性でマルヤスという社名の由来がございます。

元々は4坪ハウスのプレハブからスタートし、様々な造作・建具・家具と木工全般の職種内容でございましたが、時代・地元のニーズにより、造作家具をメインとした業務に以降して設備投資・加工場の拡張を経て、マルヤス家具製作所として現在に至ります。

創業当時はもちろん家族経営でございましたので、私も小さい頃より工場を手伝いをさせられ、知らず知らずのうちに技術を覚え、小学5年の頃にはすでに夏休みの工作として家具を作るほどの知識と技術を得ておりました。大学時代も夏冬春の長い休みは必ず実家から呼び戻されて手伝いをさせられていましたので、いざ東京から戻り家業についた時も特別な訓練もなく仕事に従事することができました。

会社の業務内容は、家具の設計・製造・取付となります。設計屋さんやお客様の要望により家具の施工図を作り、それを元に材料から家具を造作し、現場に納めるところまでが一連の業務内容となります。割合でいいますと、設計打合せ3割、製造3割、搬入取付3割、その他1割という具合になるかと思えます。当社は造作家具ということなので、既製品家具との違いは、現場に収まりよく納めるところが結構比重が高いと思われま

す。仕事先としましては、一般住宅、学校や病院などの施設、会社の工場や事務所、店舗等、既製品家具では収まらない部分はほぼすべて、造作家具としてお仕事させていただいております。また木工造作、建具、トイレブース等もやっておりますし、既存家具の修理や補修・改修等もいたしております。

工場での制作内容は、木材・健材の切断・切削・研磨・穴掘り加工など、ほぼ専用機械での作業になり、組立、塗装等が細かな手作業であります。現在は従業員が5名で少ないように思われますが、工場の規模や使用機械の限りなどにより、大体これですとやってきております。現場作業がメインではなく、加工場で制作してから取付という工程を考えますと、使用機械の数がありますので、職人の数が多ければ仕事も多く早くまわせるというわけではございませんので、現状はこれが目いっぱいかなと考えております。

またこれは先代の考えではございますが、会社自体を大きくして仕事を増やす方向ではなく、造作家具としてよりお客様のニーズにするためより深く対応するための造作技術の維持と向上を目指すスタイルで現在も対応させていただいております。

既製品でなく造作家具としてお客様のニーズ、それは安さなのか、あるいはこだわりなのかを幅広く対応しながら、より皆様の日常にそくした製品をご提案・ご提供できるよう今後もつとめてまいりたいと考えております。

以上が自己紹介・会社PRも兼ねての私の卓話とさせていただきます。